



Sun A. Kaken

**第108期(平成29年3月期)
決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2017年6月6日

目次

1. 第108期(平成29年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第109期(平成30年3月期)業績予想と今後の施策

- 今期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- セグメント別の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費
- 配当の状況

4. 参考情報

- 商品紹介
- 基本情報

目 次

1. 第108期(平成29年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第108期決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

科 目	H27年3月期末 （第106期末）	H28年3月期末 （第107期末）	H29年3月期末 （第108期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	19,315	19,228	19,800	572	3.0%
現金預金	5,440	5,601	4,387	▲1,213	▲21.7%
売上債権	10,355	10,273	11,738	1,464	14.3%
棚卸資産	3,133	3,101	3,179	77	2.5%
その他	385	251	495	244	97.2%
固定資産	10,693	12,611	15,130	2,518	20.0%
有形固定資産	5,376	7,059	8,688	1,629	23.1%
無形固定資産	17	17	12	▲4	▲26.3%
投資その他の資産	5,299	5,534	6,428	893	16.1%
資産合計	30,008	31,839	34,930	3,091	9.7%

第108期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

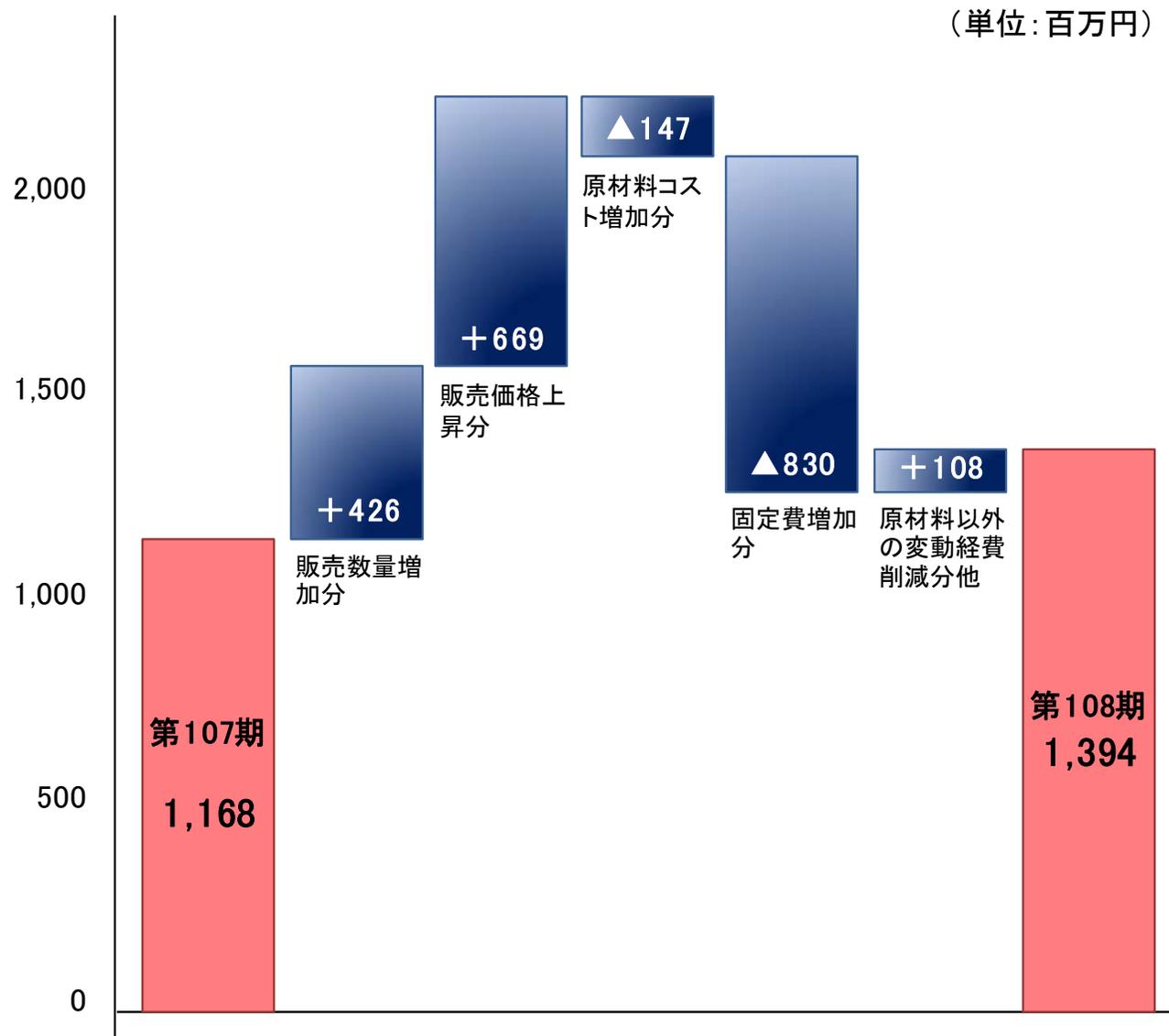
科 目	H27年3月期末 （第106期末）	H28年3月期末 （第107期末）	H29年3月期末 （第108期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	11,475	12,882	12,465	▲417	▲3.2%
仕入債務	6,208	6,045	6,738	693	11.5%
短期借入金	3,250	3,220	3,226	6	0.2%
その他	2,017	3,617	2,499	▲1,117	▲30.9%
固定負債	2,041	1,646	3,662	2,015	122.4%
長期借入金	450	233	1,909	1,676	719.2%
その他	1,591	1,413	1,752	339	24.0%
負債合計	13,517	14,529	16,127	1,598	11.0%
純資産	16,491	17,310	18,803	1,493	8.6%
負債及び純資産合計	30,008	31,839	34,930	3,091	9.7%

第108期決算概要：連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	H27年3月期 (第106期)	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,884	29,567	31,702	2,134	7.2%
売上原価	26,863	25,481	26,998	1,516	6.0%
売上総利益	3,020	4,085	4,703	617	15.1%
販売費及び一般管理費	2,879	2,917	3,309	392	13.4%
営業利益	141	1,168	1,394	225	19.3%
営業外収益	195	227	201	▲25	▲11.4%
営業外費用	250	38	134	96	250.0%
経常利益	85	1,357	1,460	103	7.6%
特別利益	17	—	—	—	—
特別損失	11	29	8	▲20	▲69.6%
税金等調整前当期純利益	92	1,328	1,451	123	9.3%
税金費用他	40	429	459	29	7.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	51	898	992	93	10.4%

第108期決算概要：営業利益の要因分解



第108期は、販売面においては販売数量の増加による増益額4億26百万円その他、商品構成の変化に伴う平均販売価格上昇による増益額が6億69百万円となった。

一方、費用面においては、掛川工場WEST及びR&Dセンターの稼働に伴う償却費その他の固定費が8億30百万円増加したが、商品構成の変化に伴う原材料コストの増加は1億47百万円にとどまった。また、原材料以外の変動経費については、合理化等により1億8百万円削減できたことから、営業利益は前期比で2億26百万円の増益となった。

目 次

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況（軽包装材料、産業資材、機能性材料）

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/セグメント	H27年3月期 (第106期)	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,884	29,567	31,702	2,134	7.2%
軽包装材料	13,987	14,071	13,854	▲217	▲1.5%
産業資材	7,708	7,458	7,194	▲263	▲3.5%
機能性材料	7,809	7,503	10,096	2,592	34.6%
その他	378	533	556	22	4.2%
営業利益	141	1,168	1,394	225	19.3%
軽包装材料	310	737	825	88	12.0%
産業資材	25	236	▲417	▲654	▲276.9%
機能性材料	▲223	123	941	818	665.2%
その他	29	71	45	▲26	▲37.1%

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品加工業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

売上高
5,987百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- 独自の食品包材で収益確保
- 国内市場は成熟、海外市場に期待

医薬品・医療器具関連

売上高
2,281百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢化により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

売上高
1,196百万円



大型製袋機導入により本格的に生産を開始し、順調に売上伸長中。

市場環境

- 容器はボトルから詰替え用パウチへシフト

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは市場拡大中
- 耐内容物包材の潜在ニーズ大

電子・精密関連その他

売上高
4,389百万円



「エアロテクト」をはじめとするエア緩衝材がこの分野の代表商品。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

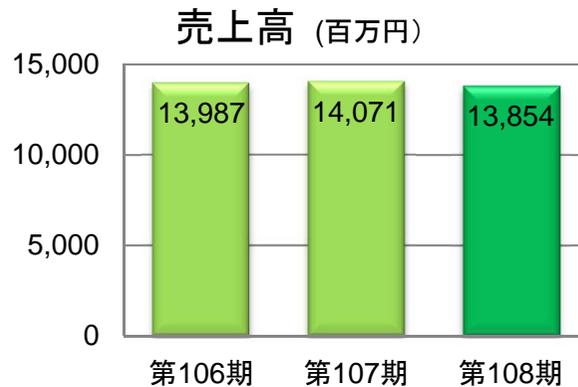
収益性・成長性

- 高級フルーツ輸送時の緩衝材として「エアクッション」提案中

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高：13,854 百万円（前期比 1.5% 減）
- 営業利益：825 百万円（前期比 12.0% 増）

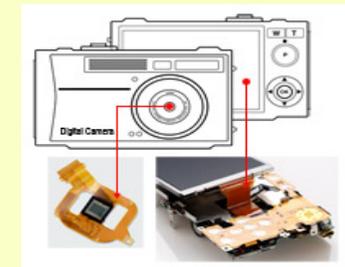


- 電子レンジ対応食品包材「レンジD○!」は堅調。清涼飲料用パウチも、新たに受注したゼリー飲料用が季節にかかわらず一定の売上を維持し、増収。
- イージーカットフィルム「ポロソ」をはじめ他の食品用包材は、個人消費の伸び悩みにより減収。
- 医薬・医療用包材は、高防湿PTPシート用フィルム「テクニフィルム」が伸びるも、他の商品が不調で前期並み。
- エアー緩衝材「エアロテクト」は、主ユーザーの生産計画下方修正の影響を受け、大幅減収。
- 原材料価格の安定と経費削減により増益基調を維持。

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

産業資材セグメント

粘着テープ、ラベル等基材の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

ラミネート紙

売上高
1,731百万円



主に粘着テープ用基材(紙ベース)をテープメーカーに販売。

市場規模 (推定)

- 重包装袋: 約900百万m²/年
- テープ用: 約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープは市場が縮小傾向

ラミネート布・ 布粘着テープ

売上高
2,253百万円



主に粘着テープ用基材(布・樹脂クロスベース)をテープメーカーに販売。

市場規模 (推定)

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

売上高
3,210百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模 (推定)

- 約2,700百万m²/年

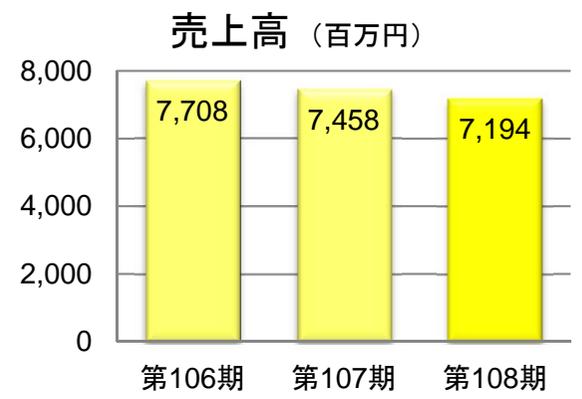
収益性・成長性

- 一般用途は収益性低下
- 電材用工程紙は市場拡大見込

各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (産業資材)

産業資材

■ 売上高 : 7,194 百万円 (前期比 3.5% 減)
 ■ 営業利益 : ▲417 百万円 (前期比 276.9% 減)



- テープ用基材については、建設・物流関係が大都市を除き停滞気味であったことから国内テープメーカーの出荷が伸び悩み、海外製テープ流入の影響も加わって減収。
- 剥離紙については、自動車関連分野は堅調であったが、その他の分野は総じて低調。海外製両面テープ流入の影響もあり、減収。
- 電材用工程紙については、海外ユーザーからの受注が年明け以降増加するも本格回復に至らず、減収。
- 売上が減少するなか掛川工場WESTの竣工及び稼働により償却負担が新たに発生し、大幅減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料
(蘇州)有限公司



各セグメントの概況: 事業の内容及び概況 (機能性材料)

サニテクト

売上高
2,388百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模 (推定)

- 約300百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 光学用途はNSタイプに成長期待

PAC

売上高
1,705百万円



2層押出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模 (推定)

- 約900百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

- 液晶テレビの導光板用は需要減少
- LCD関連は需要はあるが競争厳しい

SAT・ 粘着加工品

売上高
6,003百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模 (推定)

- 約450百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

- スマートフォン向けは今後競争激化
- 高機能ディスプレイ対応品の需要増加

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

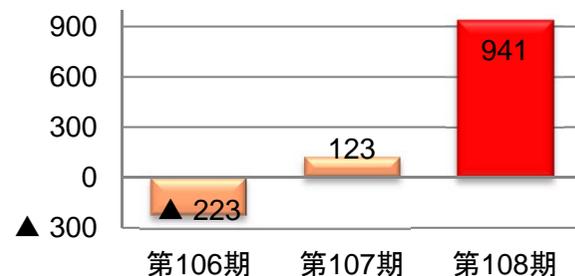
機能性材料

- 売上高： 10,096 百万円（前期比 34.6% 増）
- 営業利益： 941 百万円（前期比 665.2% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「サニテクト」については、下期に入り光学用途が全般的に回復。剥離フィルムのないPET基材の「NSタイプ」についても好調な受注が持続し、増収。
- 「PAC」については、液晶テレビ関連分野の受注が好調で、他の用途の不調を補い、増収。
- 「SAT」については、タッチパネル関連部材用及び液晶テレビの偏光板用の受注が、輸出を含め期初より好調。2～3月は受注が一段と増加し、大幅増収。
- 原材料価格の安定と稼働率上昇に伴う製造コスト低減により、大幅増益。

目次

3. 第109期(平成30年3月期)業績予想と今後の施策

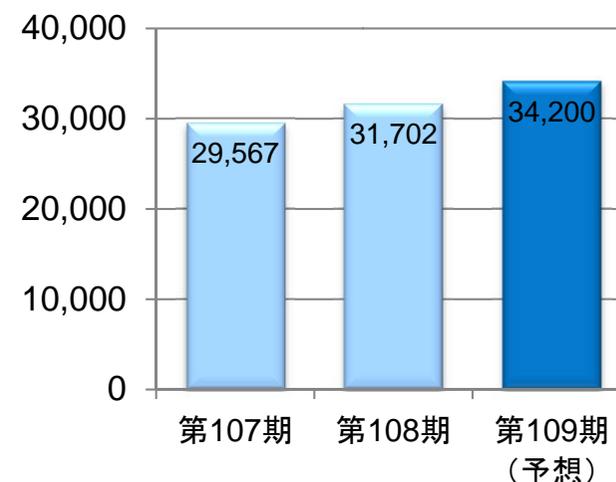
- 今期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- セグメント別の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費
- 配当の状況

第109期業績予想と今後の施策：今期業績予想

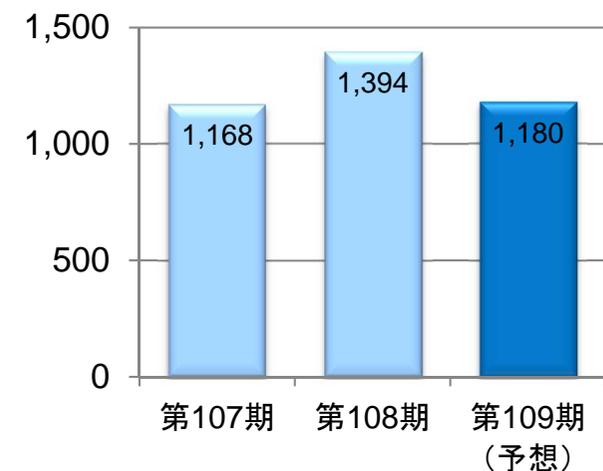
(単位：百万円)

科目／セグメント	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,567	31,702	34,200	2,497	7.9%
軽包装材料	14,071	13,854	14,100	245	1.8%
産業資材	7,458	7,194	7,600	405	5.6%
機能性材料	7,503	10,096	11,900	1,803	17.9%
その他	533	556	600	43	7.9%
営業利益	1,168	1,394	1,180	▲214	▲15.4%
経常利益	1,357	1,460	1,180	▲280	▲19.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	898	992	814	▲178	▲18.0%

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



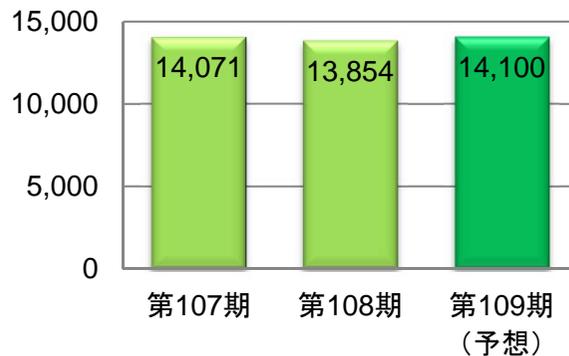
第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

【第109期業績予想】

- 売上高：14,100 百万円（当期比 1.8% 増）
- 営業利益：740 百万円（当期比 10.4% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「レンジDo！」は、大手スーパーのPB商品採用により拡販を見込む。清涼飲料用パウチもゼリー飲料用が堅調で、食品用包材は増収の見込み。
- 医薬・医療用包材は前期並み、洗剤・トイレタリー用包材は増収を見込むが、エア緩衝材については、「エアロテクト」の受注回復が見込めず、減収の見込み。
- 売上高は微増となるも、原材料コストの上昇懸念と「エアロテクト」の大幅減収により、減益が見込まれる。

第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

【第109期業績予想】

- 売上高： 7,600 百万円（当期比 5.6% 増）
- 営業利益：▲500 百万円（当期実績 ▲417百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、国内需要が頭打ち状態にある現在の状況下では増収は見込めない。
- 剥離紙については、掛川工場WESTの稼働安定後は、新規案件への対応力が強まり、受注増を見込む。
- 電材用工程紙は、海外ユーザーからの受注が回復へ。炭素繊維プリプレグ用工程紙は、今期量産開始予定。
- 増収を見込むも、コスト面では掛川工場WESTの償却負担が増加するため、赤字幅拡大の見込み。

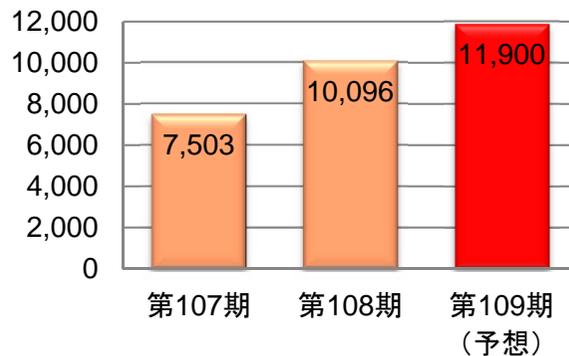
第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

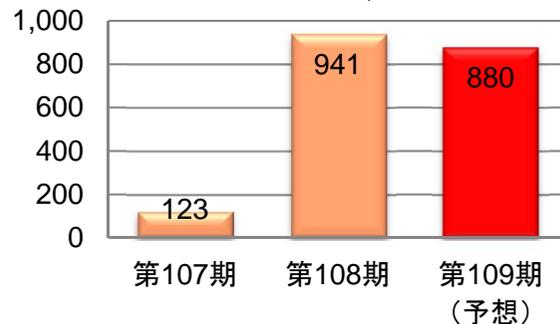
【第109期業績予想】

- 売上高： 11,900 百万円（当期比 17.9% 増）
- 営業利益： 880 百万円（当期比 6.5% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 液晶テレビ用の表面保護フィルムは、テレビの買い換え需要の増加と、長鼎電子材料の量産開始に伴い、国内向け、海外向けともに拡販を見込み、増収の予定。
- 長鼎電子材料の量産開始に伴い、掛川工場から海外向け低価格品の同社移管を進めるとともに、需要が増加しつつある高機能タイプを取り込むことで増収を見込む。
- 大幅増収を見込むも、原材料コストの上昇懸念に加え、研究開発費用及び長鼎電子材料への生産移管費用の増加が予想され、減益が見込まれる。

第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の施策（軽包装材料）

軽包装材料

■ 今後の施策

- 当社が強みを持つ独自商品を絶えず開発・改良することで競争力を高め、シェア拡大を図る。（「レンジD○!」、
「ポロソ」、エア－緩衝材など）
- 缶・ビンに代わり得るプラスチックフィルムからなる耐内容物包材について、ラインアップを拡充し、より広範な用途で利用されるよう拡販活動に注力する。
- 静岡・奈良両工場で取得したFSSC22000を武器に、大手食品メーカーだけでなく、大手包装材料メーカーからの委託加工の取り込みにも注力する。
- 海外市場開拓のスキームについて調査・検討を行う。

第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の施策（産業資材）

産業資材

■ 今後の施策

- 掛川工場WESTの生産を軌道に乗せ、品質・納期面で大口ユーザーの信頼に応えていき、関係強化を図る。
- 老朽設備の統廃合を進め、生産拠点が4カ所に分散する現体制を再構築するとともに、掛川工場WESTを中心に各工場の強みを活かした生産体制に移行することによって全体の収益力を引き上げる。
- 価格競争力のある新タイプの電材用工程紙の開発を加速し、この市場におけるシェア拡大を図る。
- 炭素繊維プリプレグ用工程紙の受注を拡大し、成長市場における足場を固め、収益構造の転換を図る。

第109期業績予想と今後の施策：セグメント別の施策（機能性材料）

機能性材料

■ 今後の施策

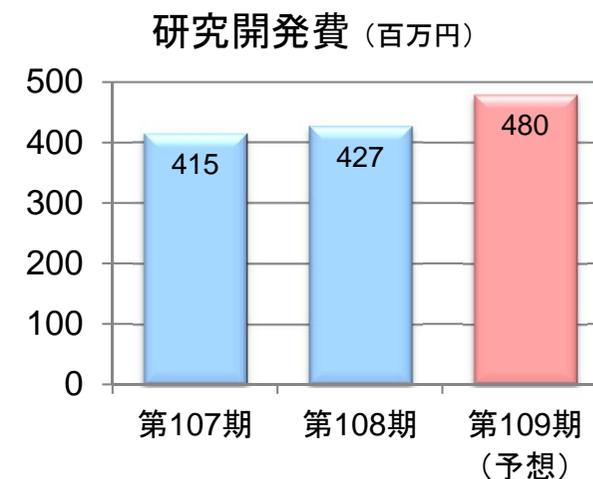
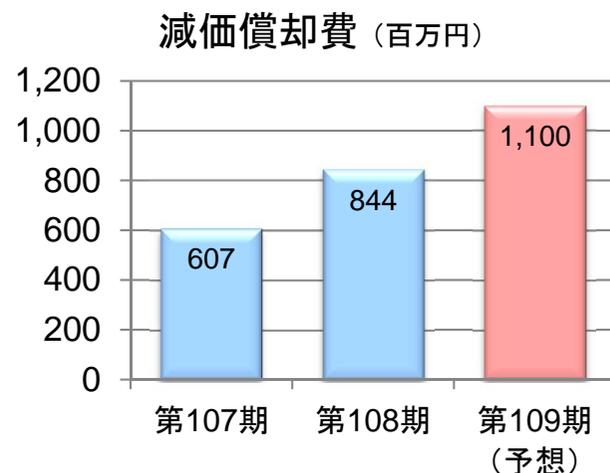
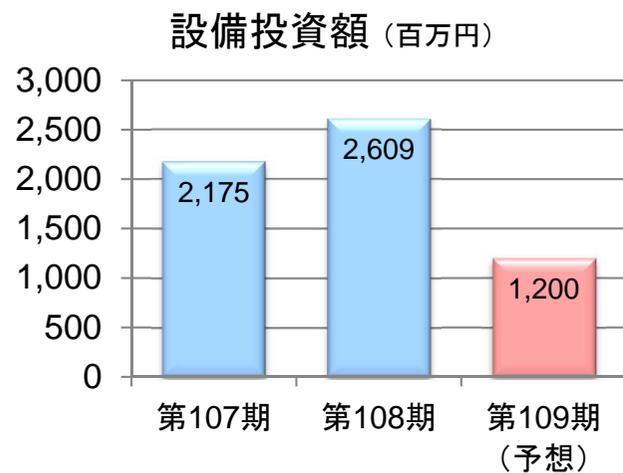
- 長鼎電子材料の量産体制への移行を支援するとともに、中国販社と台北営業所による海外ユーザーの開拓を加速し、中国ビジネスを軌道に乗せる。
- 顧客密着型の開発態勢をより強化して、光学用途のニッチな分野においても顧客の新商品の開発段階から関与することで将来の受注機会を早期に獲得する。
- 将来有望な有機ELに対する知見及び技術を得るために、有機ELの表面保護に関する開発テーマを顧客との間で数多く共有できるよう努める。
- 表面保護フィルム以外に、当社の成膜技術を活かすことのできる分野への商品展開を進める。

第109期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

科目	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期) (予想)	備考
設備投資額	2,175	2,609	1,200	製袋機、巻き取り機他
減価償却費	607	844	1,100	掛川工場WEST・R&Dセンターの償却費が通期の負担となるため
研究開発費	415	427	480	R&Dセンター関係の償却費増加、試作費・試験費の増加

設備投資額は無形固定資産を含む



第109期業績予想と今後の施策：配当の状況

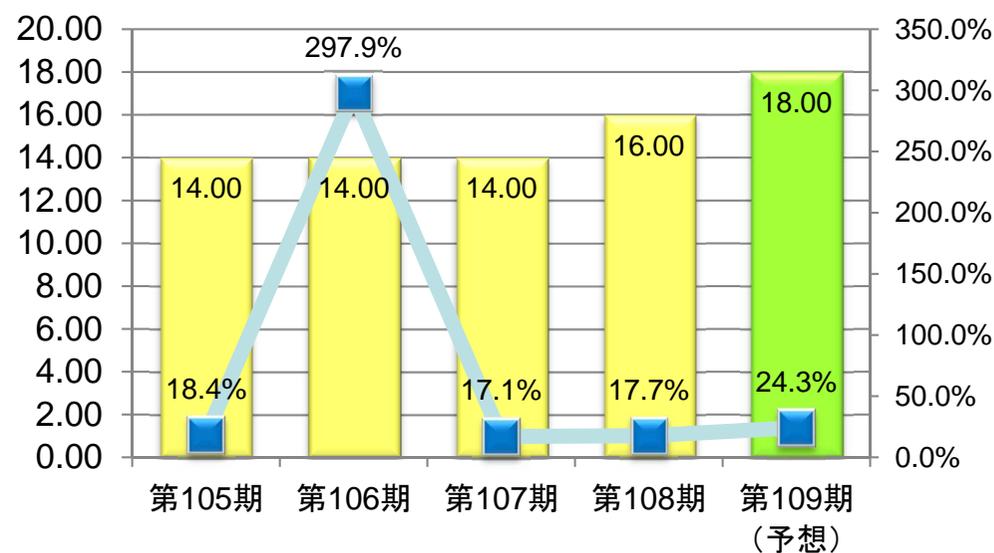
(単位:円)

項目	H26年3月期 (第105期)	H27年3月期 (第106期)	H28年3月期 (第107期)	H29年3月期 (第108期)	H30年3月期 (第109期) (予想)
年間配当金	14.00	14.00	14.00	16.00	18.00
配当性向(連結)	18.4%	297.9%	17.1%	17.7%	24.3%

■ 配当方針について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、将来の事業展開と企業体質の強化に備えて必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。

年間配当金(円)及び配当性向(%)



目 次

4. 参考情報

- 商品紹介
- 基本情報

参考情報：商品紹介（炭素繊維プリプレグ用工程紙）

<炭素繊維プリプレグ用工程紙とは>

炭素繊維強化プラスチック(CFRP)の製造工程の中で、炭素繊維に樹脂を含浸させてシート状に加工した中間材料「炭素繊維プリプレグ」が製造される。

「炭素繊維プリプレグ用工程紙」は、この「炭素繊維プリプレグ」の一般的な製造工程（炭素繊維に熱硬化性樹脂を含浸させ、加熱して半硬化させる工程）で使用される。

(使用例)

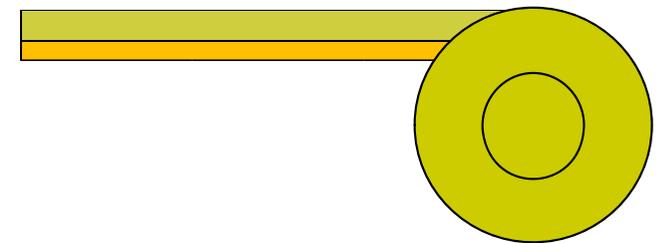


熱硬化性樹脂を塗工したプリプレグ用工程紙で炭素繊維を挟み込み、樹脂を含浸させる



樹脂を半硬化させる

炭素繊維プリプレグ



片側のプリプレグ用工程紙を剥がしてロール状に巻き取る

<炭素繊維強化プラスチックが使用される分野>

- ◆ スポーツ・レジャー分野(ゴルフシャフト、釣り竿、ラケット)
- ◆ 産業分野(自動車、コンクリート補強材、パソコン)
- ◆ 航空宇宙分野(航空機、ロケット、人工衛星)

<状況>

有償サンプルを炭素繊維メーカーに提出
今期中をメドに本格生産の見込み

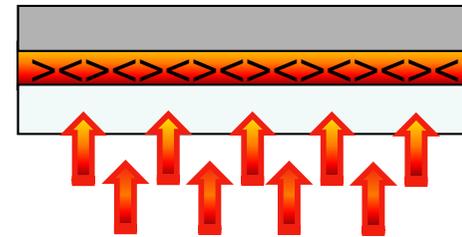
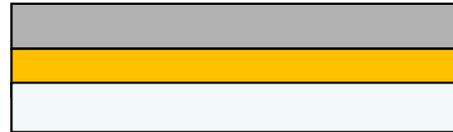
産業資材部門の収益構造転換へ

参考情報：商品紹介（耐内容物包材）



一般的な軟包装袋（フレキシブルパウチ）では

アルミ箔等
接着剤
シーラント



内容物成分が
接着層を侵食



接着層の剥離

内容物が強酸、強アルカリ、芳香成分等の場合

- 洗浄剤、消毒剤、香料や溶剤等の刺激性の強い内容物の容器については、通常、金属チューブ、金属容器、ガラス容器が用いられる。
- これら容器について、以前よりフレキシブルパウチ化のニーズがあるが、従来の包材では内容物成分が接着層を侵食し、外部に漏出する可能性があり、利用範囲が限られていた。
- 新たな接着剤の採用と製品設計の見直しにより、既存製品を改良。

広範囲に利用できる

耐内容物包材 を開発

新市場の開拓

特徴

- プラスチックフィルムからなる軟包装袋でありながら、強酸、強アルカリ、芳香成分等に耐性をもつ。
- 金属やガラスの容器と比較して軽量、低コスト

参考情報: 基本情報

<p>商 号 証 券 コ ー ド 設 立 代 表 者 事 業 所</p>	<p>株式会社 サンエー化研 4234 (JASDAQ スタンダード) 1942年9月 (昭和17年9月) 代表取締役社長 藤岡 宣隆 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋、静岡 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿) 生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良 野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場) 【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料) 研究開発拠点 : 掛川</p>
<p>資 本 金 事 業 内 容 連 結 従 業 員 数 決 算 期</p>	<p>21億76百万円 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売 683名 (平成29年3月31日現在) 3月31日</p>

業績予想は、本資料の発表日現在(6月6日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp